



熊野：

黄泉還り (= 蘇り) の地

癒しは、

医療の原点

祈りは、

宗教の原点

医宗同根

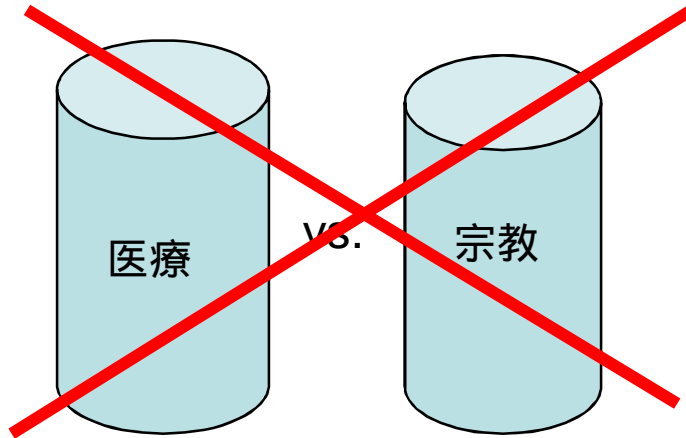
医宗合一

医療と

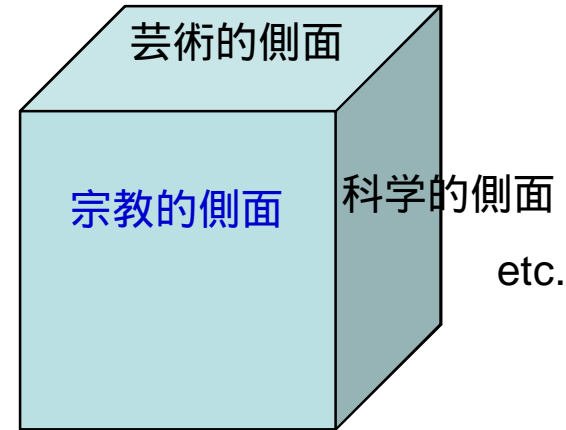
霊(魂)性・宗教性の関係は？

(026 - 041) 医療における宗教的側面・要素

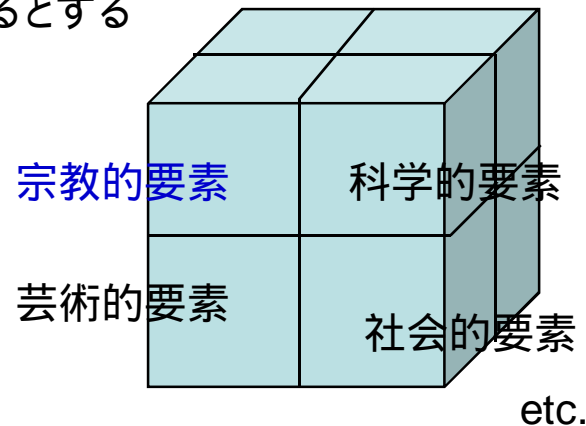
対置的・並立的に
外部にあるとするのではなく



医療



医療における宗教的側面aspect、
宗教的要素componentのように
内部にあるとする



医学の特異性：複合的学問・統合的特性

科学的側面；身体を物質的存在に還元、

身体部位別・治療手段別に分化・専門化

哲学的側面；精神的存在に還元、

人間を全体として扱う全人医療的 倫理的

宗教的側面； 医療奇跡(シャーマニズム・道教・

ルルドの泉) プラシーボ 霊(性)的

「医者には牧師のこころを持つべき」(内村鑑三)

芸術的側面；「サイエンスに支えられたアート」(Schweitzer A)

「個性の交流が作り上げるアート」(日野原重明)

(フランスの外科医 アンブロアズ・パレ (1510?-90))

(023 - 008)

"私が処置をし、神がこれを癒し給うた。"

治癒:肉体的・精神的・靈的

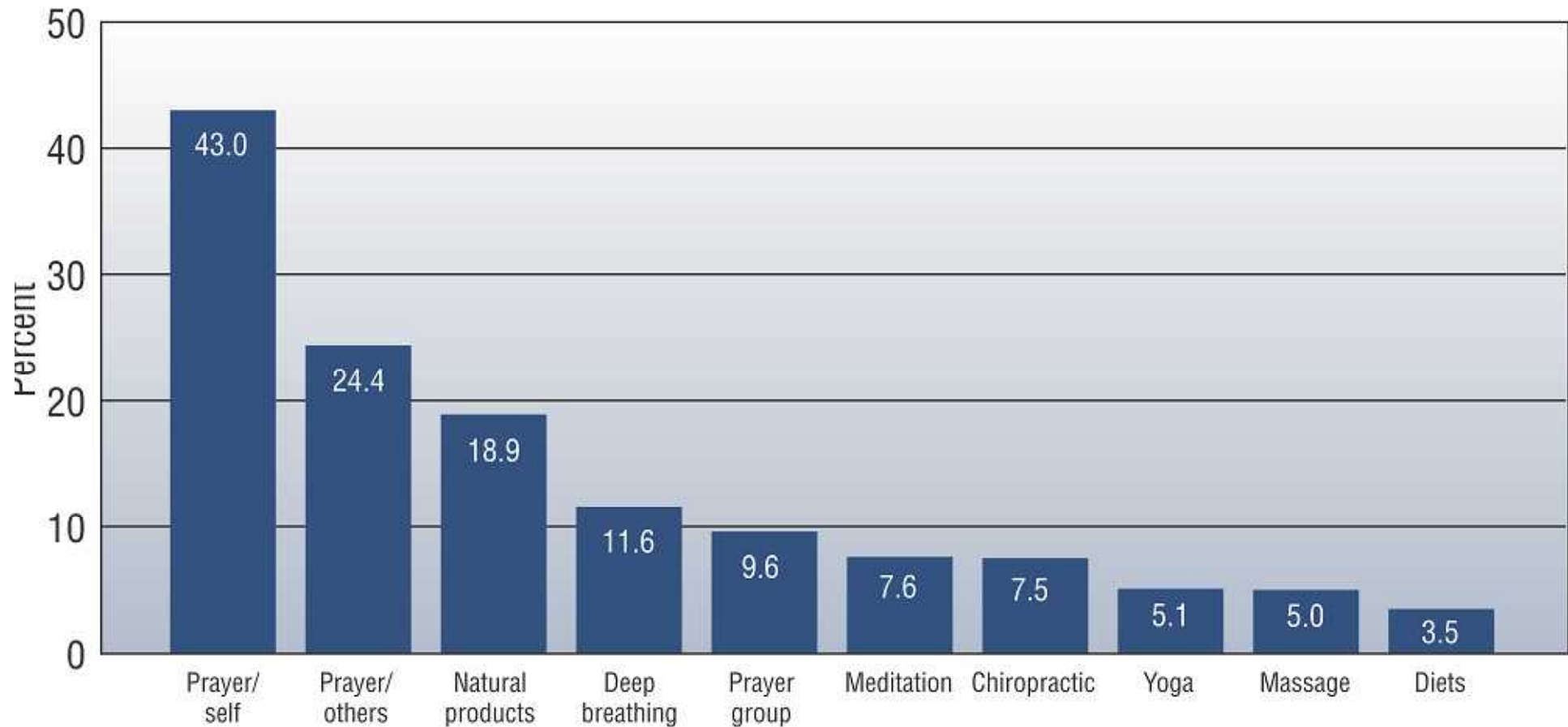
自発的・自動的

回復

医療:自発的治癒能を活性化

10 Most Common CAM Therapies—2002

011-030



Source: Barnes P, Powell-Griner E, McFann K, Nahin R. CDC Advance Data Report #343. Complementary and Alternative Medicine Use Among Adults: United States, 2002. May 27, 2004

靈性の意義

靈性を**宗教意識**と書いてよい。。。

靈性に目覚めることによって初めて宗教がわかる。

普通に精神と言っている働きとは違う。

精神には倫理性があるが、靈性にはそれを超越している。

精神は分別意識を基礎としているが、

靈性は無分別智である。

靈性の直感力は、精神の直感力よりも高次元のもの。。。

(026 - 029) 宗教的ではあるが、靈的ではない

組織宗教の信徒たちは、彼らの信仰は元々、その預言者の恍惚的体験に基づいていたということをしばしば忘れる。その人々の宗教的傾倒は、もはや真正の靈性の基準によってではなく、その宗教の信条的立場に一致する度合いによって判断される。かくして、人が**宗教的ではあるが**、しかし**靈的ではない**ことが可能になる。

(Elkins, ND:Beyond Religion,1998

(大野純一訳:スピリチュアル・レボリューション、p118、星雲社、東京、2000年)

(026 - 002) ヒーラーは霊的存在の仲介者

治療師(ヒーラー)は治療エネルギーというか
生命力を伝える仲介者にすぎず、**霊的存在の
助け**を受けていることが分かったのである。

(Shine B : Mind to Mind,1989

(中村正明訳:スピリチュアル・ヒーリング、p170、日本教文社、東京、1991))

靈性

「靈性」について新キリスト教事典(いのちのことば社)は「**靈的存在を意識**したりそれに**反応**する人間の基本的性質, 神との深い交わりの状態, 福音派教会では宗教的感情, 熱心さと関連してとらえることが多い」と解説している。

ref : **靈性を説明するのに、靈的。**。。靈の説明がない。

(葛西賢太:スピリチュアリティを使う人々。
スピリチュアリティの現在、湯浅泰雄監修、p130,人文書院、京都,2003)

人間の本質は、 homo patiens/homo curans

015-040

人間は古来、「理性的存在 (homo sapiens)」と規定されてきた。近代医学はこうした人間観に立脚して、医学を科学とみなし、さらには技術と考えてきた。この人間観には心身分離が前提されており、そこにあるのは身体の技術的支配という思想である。しかし、人間は心身の合成体であって、「感性的存在 (homo patiens)」であるということが帰結する。人間とは苦しみ悩む存在である。自らの脆弱性を他者に助けられ護られながら、他者の脆弱性を助け護ってゆく (助け護る人 homo curans) ことによって、人間は人間として生きてゆくことができる。

(池辺 龍雄：医学を哲学する、p144、世界思想社、1996)

(026 - 018)

ラポール (rapport)

Freudの源流となったMessmerの動物磁気説の中での概念。精神科の医者の間では日常語として使っている言葉。。。言葉を使わないで患者と治療者の間で**気持ちを通じ合う**ような現象。Messmerの磁気・治療を受けにきた個人の磁気が、宇宙の磁気と感応しあって動物磁気の治療が成立すると考え、人から人への感応をラポールと呼んだ。。。。

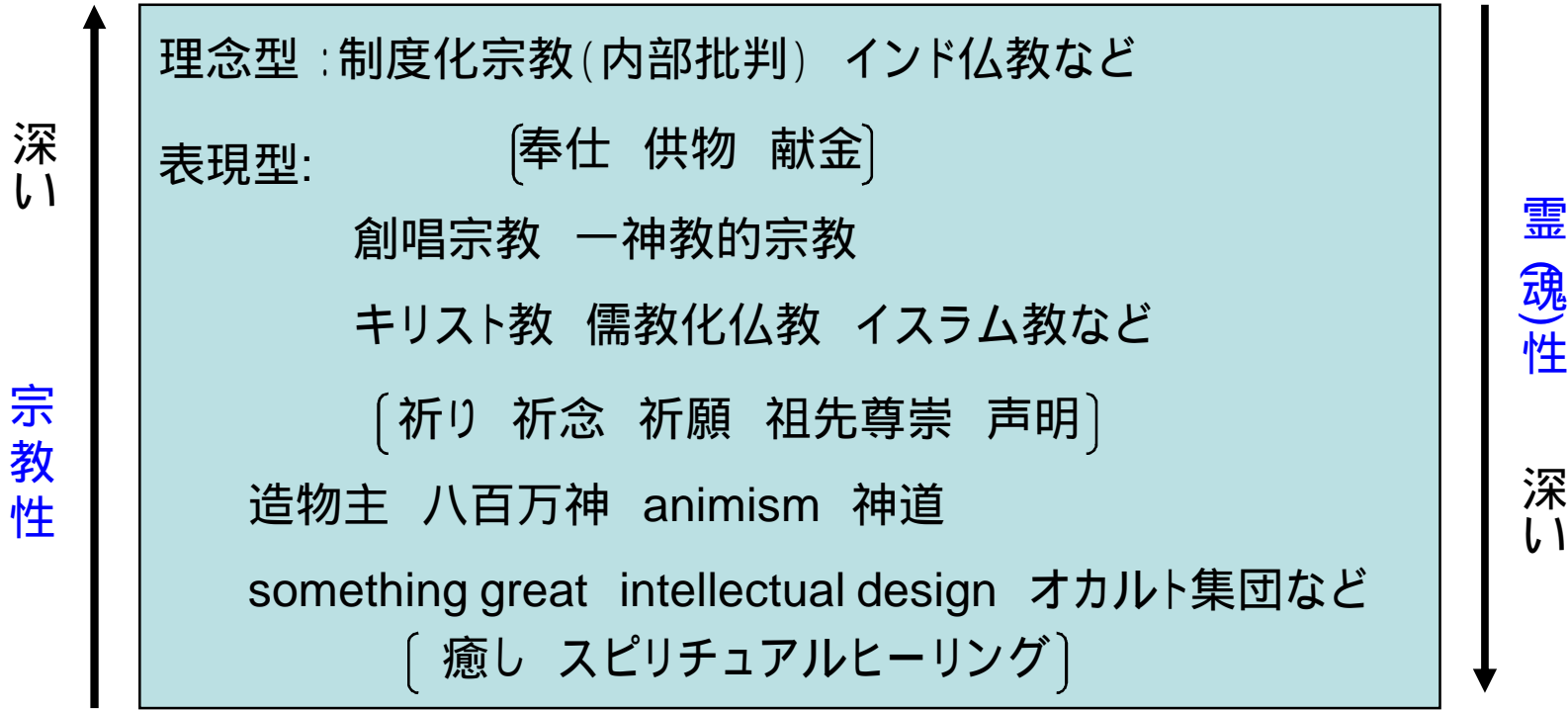
ラポールは1つの感覚で、個人の感覚というより共通感覚に直接つながる二人で**共有する感覚**。。。。

ref:気が合う・気が通う ref:placebo効果

ref:政治家・役者・歌手の存在感、カリスマ性

ref:vibrational medicine

霊(魂)性・宗教性の概念モデル



インフラストラクチャー

霊(魂)性spirituality

霊spirit 魂soul

普遍的本質 元型(ユング) 世界霊・宇宙霊

共通(感)感覚 ラポール homo curans/patients

Ref : 宗教は約束事・科学は先行的了解事項を追求しない(引力・脳の意識作用)

霊(魂)性・宗教性が、
なぜ癒しに作用するのか

プラシーボは癒しのシンボル 001-015

プラシーボ効果とは、シンボルを用いた儀式がもたらす癒しの効果である。

世界中の様々な**宗教や信仰**の中でおこなわれている**癒しの儀式**と本質的になんら変わるものではない。

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p36,朝日新聞社、東京、2001年)

プラシーボ効果を発揮する要因 002016

医者と患者の間の信頼にもとづいた**人間関係**

医者が治療にかける自信や威信のような

人間的要素

病院の雰囲気のような**状況的要因**

患者の**心の柔軟さ**がプラシーボに

働く場を与える

cf. プラシーボはエンドルフィンを分泌

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p39,朝日新聞社、東京、2001年)

プラシーボ効果発現の説明

002023

Endorphin経路

免疫力活性化経路

cf.遺伝子switch-on(阿岸)

(廣瀬弘忠:心の潜在力、プラシーボ効果。朝日選書679,p131,朝日新聞社、東京、2001年)

脳の情動処理

002024

脳は「**できる**」と確信する(仮説を立てる)と、その「**確信**」の論理的な**後ろ盾**を与えるべく**認知情報処理系**がフル活動をする。そのため「できる」と確信したことは必ずできるようになる。

逆に「できない」と確信してしまうと、脳は「できない」ことの論理的理由を明らかにするように働き、できる可能性をどんどん縮小する方向に働く。

cf. 情動による遺伝子switch-on(阿岸)

(松本元: 愛は脳を活性化する。岩波書店、東京、1996)

日本では、

霊(魂)性・宗教性が

表面的には忌避される理由

(026-007)

自然宗教と創唱宗教

日本人の宗教心は、「融通」と「曖昧さ」に満ちている。。。

「特定の宗教」を基準にしている限り、とりわけキリスト教・イスラム教を念頭に置く限り、日本人の宗教心を正確に理解することはほとんど不可能。。。自然宗教と創唱宗教の区別が、日本人の宗教心を分析する上に有効。

自然宗教：

自然発生的

教祖・経典・教団を持たない

無意識に受け継がれ、今に続く

創唱宗教：

特定の人物が特定の教義を唱え、
信ずる人がいる

教祖・経典・教団によって成り立

キリスト教・仏教・イスラム教・

新興宗教など

Ref: 八百万神・多神教・animism (anima 霊)・非宗教的spirituality ?

(阿満利磨: 日本人はなぜ無宗教なのか, ちくま新書085, p010, 筑摩書房, 東京, 1996)

(026-012)

「宗教」という造語の陰に

現在の日本人が使う意味の「宗教」は、キリシタンの取り扱いをめぐって生まれた明治になってからの翻訳語。。。キリシタンは、**維新政府**になってからも、徳川幕府と同じく禁制の対象。キリシタンが**天皇の神聖**を危うくするかもしれない。。。列強諸国との外交を確立しようとするときキリシタン禁止令が大きな障害になる。明治政府は、禁制の高札を撤去してキリスト教の信仰・普及が自由になったかのように外国には説明し、一方国内的にはキリシタン禁制は周知のことで、あえて高札を立てておくにも及ばない。。。ここに、「宗教」の用語が登場・定着。。。この「宗教」が「創唱宗教」を意味して、「自然宗教」を含む言葉ではなかった。。。日本人の多くが「創唱宗教」の信者ではないという意味で「**無宗教**」と称する理由。。。

ref:**廃仏毀釈・神道非宗教論で宗教が行方不明**

(阿満利磨:日本人はなぜ無宗教なのか,ちくま新書085、p074、筑摩書房,東京,1996)

011-050 現代日本医療の霊性・宗教性の重層性

現代日本の医療と霊性・宗教性

表層(後天的・獲得的・教養的・建前論的):

医療・教育において霊性・宗教性は禁句！オカルトには腰が引ける(どうする?)。
儒教道徳・精神の追放(paternalism追放)。

情報開示・informed consent・病名告知。移植医療。国境なき医師団・在宅看護

深層(先天的・生来的・遺伝的・民俗的):

霊性・宗教性を認める。死体に靈魂。葬式・盆・暮れ・祭り(日本式儒教化仏教)
マスコミ的オカルト・占い・祟り・遺恨・怨恨。

儒教的精神(家族内のことは外へ言いたくない。家の恥。外聞が悪い)

病名は本人には言わないで！キリスト教的service/donation精神は未熟・ない？

移植臓器は肉親へ提供。移植のための脳死(日本的擦れ・歪み)。

医療における感性の原初的共鳴(vibrational medicine)・癒しの医療

神仏に祈願/加護・シャーマニズム

cf:most popular CAM in USA prayer

根源的深層精神構造は、霊・霊性を認め、真にグローバル的共通！！

(022-020) 科学專一的医療から
統合医療へ移行のincentive/driving force

原初的医療
多様な側面
科学的・哲学的・**宗教的**・芸術的etc.
多彩な要素

